



## 閉会のあいさつ

第75回九州地区小学校長協議会研究大会

佐賀大会実行委員長 牟田尚敏

2日間の研究大会へのご参加大変お疲れさまでした。

「共感と温感 そして響きあう九州 ～アフターコロナの時代をみんなで拓く」というコンセプトで開催した佐賀大会は、会場移動等の困難さがございましたが、皆様にご協力いただき大きなトラブルもなく終了することができました。誠にありがとうございました。

大会アンケートには、「温かい大会だった」「元気になった。」といったお言葉を多くいただきました。大会コンセプトが浸透し、参加いただいた校長先生方のこれからの学校運営に少しなりとも活力を与えられたことを感じ、大会スタッフ一同、この上もない喜びに浸っております。

さて、閉会式では、私の思いを語らせていただきました。後半部を抜粋し、掲載します。

これからは「予測不能」で「変化が激しい」社会になると、どのメディアも声高に不安をあおっているようにも感じます。そんな話を聞くと、私は古い人間ですからつい、子供をたくましく育てなくては、鍛えなくてはと考えてしまいがちでした。しかし、「共感」し繋がることで、問題を解決することも、たくましさの形であると子供に教えられ、私の教育観が変わっていきました。

人とつながり、それぞれの良さを認めることや良さを生かしあって問題をよりよく解決すること。

それは、本大会主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る」姿にも重なります。

校長先生方もまた、予測不能で変化が激しい社会を生きる一人です。これからの校長像をどんどんアップデートしていきたいですね。その扉を拓く鍵は、「学び続ける意欲」と「つながり」だと、私は考えます。また、このような場で、実際に会い、話を聞き、対話を重ねる。その体験は、時に感動を伴います。その感動こそが、自らをアップデートする3つ目の鍵となります。

ですから、校長が率先して学び続けましょう。学校の外へ出て、自分とは異なる魅力をもつ人との出会いやつながりを求めてまいりましょう。その営みを支えることこそが、全連小そして九州地区小学校長協議会、各県校長会の存在意義の根幹をなすものです。

校長は孤独な職。確かにそうかもかもしれません。しかし、九州にはたくさんの温かい仲間がいます。先生方、おそれず校長職を邁進してまいりましょう。合言葉は、そう「九州は一つ」です。

私の校長生活後半は、佐賀県校長会そして、全連小・九小協と深くかかわることになりました。そこで私自身も大きな学びがありましたし、この会の意義を深く考える機会もいただきました。その経験から、九州の校長先生たち一人一人へ、熱くエールを送りたいと考えた次第です。みんなで学校を元気にしていきましょう。

本研究大会にご参加のみなさん、そして九州各県校長会並びに事務局のみなさん、貴重な実践を提案していただいた18名の提案者、そして司会者のみなさんのおかげで、九州の仲間の温かさを感じ、多くの刺激を得られる大会となりました。改めて感謝申し上げます。

来年度は沖縄大会です。青い空の下みなさまに再会できることを楽しみにしています。

そして最後に、全国で一番小さい校長会の素晴らしい仲間たちに、「ありがとう！」